

# 朋友

For You

新春号

沖縄セントラル病院広報誌

2016年1月1日発行 Vol.27



医療法人 寿仁会

沖縄セントラル病院

〒902-0076 沖縄県那覇市与儀1-26-6 TEL.098-854-5511 FAX.098-854-5519  
URL : <http://www.jyujinkai.or.jp/> E-mail : o-centh1@nirai.ne.jp

ユートピア沖縄

〒902-0064 沖縄県那覇市寄宮2-1-18 TEL.098-854-5551 FAX.098-851-9026  
URL : <http://www.utopia.jyujinkai.or.jp/>

クリニック絆

〒902-0064 沖縄県那覇市寄宮2-1-18 TEL.098-854-5531



平成27年度 医療法人 寿仁会 沖縄セントラル病院 ユートピア沖縄 忘年会  
平成27年12月22日 於：パシフィックホテル沖縄

## Contents

申年(2016年) 年頭所感 (医療法人寿仁会 理事長 大仲良一) .....	1
2016年に向けて (医局長・健康管理センター長 長島直樹) .....	6
理想を現実にするために (ユートピア沖縄 理事長代行 儀間政秋) .....	7
年頭のご挨拶 (看護部長 遠藤久乃) .....	9
2015年 忘年会スナップ写真 .....	12



## 申年(2016年) 年頭所感

医療法人 寿仁会  
理事長 大仲 良一

新年明けましておめでとうございます。

皆様には健やかに新春を迎えたこととお慶び申し上げます。

昨年は沖縄県においては辺野古問題に明け暮れた一年間でしたが、他方世界に目を転じますと、宗教の名のもとにイスラム国による無差別殺傷やテロが頻発、更に数百万人にも及ぶヨーロッパ各国の越境難民の問題、アジアにおいては中国や北朝鮮による力による利権の問題で一触即発の状態、地球規模の温暖化やTPPの問題では発展途上国と先進国との確執等々、余りにも暗いニュースの多い一年でした。

厳しい世相の中、心安まる明るいニュースは大村氏のノーベル医学・生理学賞、梶田氏の物理学賞の受賞、更に金星探査用の衛星“アカツキ”が今回は見事に軌道にのり、我が国の科学の粋を全世界にアピールされました。

また、スポーツの分野ではスケートの羽生選手が見事な演技で世界最高点を出し神業と称賛されました。

翻ってみると我が寿仁会、ユートピア沖縄は文字通り“理想郷”を求めた高齢者が安住の場として着実に定着して参りましたが、一方、沖縄セントラル病院は深い霧と荒波の中を明日への暁光を求めて暗中模索、苦難に満ちた一年でした。

さて団塊の世代が後期高齢者となる超高齢社会を迎え、これから病床の機能分化、介護の推進による在宅医療、地域包括ケアシステム

の構築といった医療介護サービスの提供体制変革等で、我々の医療環境はその変化の波の最先端に立っています。社会保障の財源不足や、認知症をはじめ要介護患者の急増など大きな変化への対応に本年度はしっかりと備えねばなりません。

今後ますます病院の経営環境は厳しさを増すことは明らかで、このような状況を開拓するためには病院が“公供施設”としての役割と“事業主体”としての役割を同時に追求する必要性に迫られています。

提供体制を構築できず改革が遅々として進まない病院は、医療施設として存続することは大変厳しい時代になりました。組織体制を改革し、存続していくためには医師をはじめ、多職種の密な連携が必要不可欠です。立場も規模も背景も異なる多職種連携には、医療、看護、介護サービスの提供体制に関わるすべての職員が理念に基づいて同じ方向を目指すことが必要で、そこには経営マネジメント能力のある中間管理職の強いリーダーシップが求められます。

私共寿仁会沖縄セントラル病院や、サ高住施設ユートピアは、改めてこの地域における自らの立ち位置をしっかりと見直し、次の世代に向けて持続可能な事業をするための構想を明確にし、世の趨勢をしっかりと見極め、地域の現状を的確に把握し、ニーズに応じた活動を進めなければなりません。

他施設や団体との密接な連携強化や提携協力に真剣に取り組む必要があり、病院の診療

機能や、ユートピアのサービス機能を詳細に再検証するとともに、近隣医療機関や、介護施設の役割、機能等を具体的に把握し、行政や関係団体の動向にも常に留意しつつ経営に早急に活用する必要があります。

しかし乍ら語るは易し、行うは難しで小生が幾ら力んでも自ら限りがあります。前述したようにこの厳しい試練を乗り越えるためには、全職員が一丸となって一糸乱れぬ協力が不可欠であります。

昨年度の年頭挨拶にも述べましたが過去一年間に積み残した課題が余りにも多過ぎました。それは、とりもなおさず、組織が充分に機能せず荒波の中をさ迷い目的とする対岸に辿り着けなかつたという事につきます。

組織を完璧に機能させる為には情報の共有、コミュニケーションの充実が必修条件です。数年来、小生はコミュニケーションの大切さを“朋友”に再三記述してきましたが、実践に乏しく、P D C Aサイクルが全く機能せず、成果を挙げ得てないのが現状です。

医療現場にこそコミュニケーション能力が必要です。人は一人では生きていけません。家族に支えられ、誰かの世話になり、友人、知人をつくり楽しいことを共に喜び、辛いことは分かち合い、信頼関係を築きながら日々頑張って生きています。世の中がこうした目に見えない“縛”で結ばれているように、職場もまた見えない“縛”で結ばれているのです。その“縛”をしっかりと保つためには、お互に意識的な努力が必要です。

知識や技術さえ習得しておれば、職務は円滑にすすむというものではありません。仕事をすすめるのは“人”であり、人には“心”とそれぞれの価値観がありプライドもあります。いくら業務のプロセスや必要性を説いても率先した行動に移せず、ただ指示待ち族では機動力に乏しい組織になっていました。個々の

職員が自らの裁量で、如何に判断業務を的確に行えるかによって、組織全体の業務の処理スピードや質が大きく変わってくるものです。

“医療人”とは医療現場で働くすべての人々、即ち患者さんと常に接する部署にある人も、そうでない人も、また資格をもった技術職の人も、それをサポートする立場の人も総称しています。

患者さんに対してどうあるべきかを真剣に考えることは、医師や看護師だけでなく、技師事務職、厨房職員、清掃業務などすべてのスタッフに必要な責務であり、それが“医療人”としての自覚につながるものです。その原点こそがコミュニケーションという基本的な行動です。医療機関ではこれが所謂接遇です。

患者さんへの接遇は、健康な人々と関わる以上の卓越したコミュニケーション能力が必要とされるもので、相応の技術や知識を持ち合わせることが必要で、一朝一夕で出来るものではなく、職員同志の日々の研鑽によって培われるものです。

更にコミュニケーションについて述べたいところであるが、紙面の都合上割愛し、“理事長メッセージ”の続編として折々に記すこととします。

### 本年度の法人寿仁会のビジョン

地域の方々や患者さんに信頼され、職員も働く喜びを実感できる強力な新しい組織づくりを第一のテーマとし、P D C Aサイクルを完璧に機能させ、従来達成し得なかった諸々の計画、構想を実現することを第二のテーマとする。

怒濤の如く動いている時代の流れから、スピーディに遅れを挽回し、医療機関・高齢者施設としての機能を充分に備え、更に新しい計画に挑戦する年にしたい。

ビジョン実現のためには、個々の職員は固

より中間管理職の責務は重く、その力量発揮如何によって“寿仁会”の盛衰が左右されると言っても決して過言ではありません。

ここで過去において小生が朋友で記述したものを再載します。役職者、職員に自らの在り方について顧みる機会としていただきたい。

病院の現状認識については医師問題をはじめ、建造40余年という建物の老朽化を多くの職員が異口同音に指摘し、早急な対策を求めていることは従前より経営責任者の立場から縷々述べてきたところである。経営というものは自前単独で解決出来るものと、相手乃至は第三者との交渉によってはじめて成就されるものがあります。

例えば建物のリニューアル、又は新規建設の為には法的な制約をクリヤーする必要があります。土地の買収の件も然り、医師招聘の件にしても単に頭数を揃えればよいというものではなく、真に当院のニーズに応えられる医師が求められます。

毎年の“朋友”年頭所感にその年度の経営ビジョンを明示しており、それを中間管理職がしっかり咀嚼し、自らの部署に周知徹底させ、さらに他の部署との密な連携によってビジョン達成の為に組織内のコミュニケーションを十分に図ることこそが役職者の使命である。

或る部署ではリーダーを先頭に苦境の中でも試行錯誤を重ねつつ患者様の為に、病院の為に、ひいては自らの倖せの為に懸命に職務を全うしている姿が窺える。反面、眼前の事象から目を逸らし、斯様な結果を招いた原因を他に転化して、批判、誹謗に終始し“諦め”的境地では役職者としては失格に等しい。

役職者は自らが率先垂範し、積極的に経営に参画することである。“失意泰然”、“得意淡然”物事がうまくいかなくなっても、焦らず落ち着いて時節の到来を待つべきでうまくいかない時期をうまく乗り切った者が成功する。

スランプは有効に活かさねばならない。(万事流転)

この故人の教訓の如く、常にpositiveに行動し機会を最大限に活かすことである。

組織も人も新陳代謝を繰り返して成長していくものである。滞留していれば陳腐化してしまう。自己の能力というものは過少にも過大にも自らは評価できるが、眞の評価というものは第三者によって決まるものである。能力は磨けば光るが、常に磨かなければ陳腐化するものである。能力は3年で陳腐化し、5年で固まり、7年で化石化するという眞意に気づく職員は少ない。

自己研鑽を生涯続けることが成長する為には欠かせない。役職者は勿論のこと、専門分野のみならず、それまでに経験したことのない未知の分野にまで広げることで人間としての幅を広げることになる。その為には他職員との積極的で密な交流、コミュニケーションの充実が求められる。

今、沖縄セントラル病院並びに  
ユートピア沖縄に求められているもの  
地域住民に安心を与える両施設の役割  
～明日への飛翔～

病院の本質的な役割は、病気や怪我を治療すること、更に病気の予防について地域の方々に啓蒙することもその使命と考える。

地域包括ケア・システムが本格的に動き出すことで当院が地域住民に対してどのように貢献できるか、少子高齢社会の到来で暗いネガティブな発想ではなく、元気な高齢者が集う処(多目的ホールの活用)、具合の悪い人が回復する場(リハビリ、メディカルフィットネス)、しっかり治療に専念できる施設(病院)、及び安心して余生を過ごせる施設(サ高住ユートピア)を最大限にその機能を発揮することで、地域の活性化に繋げることができると考える。

これからの病院は医療や介護だけでなく、“人”を考えた構想を具現化しなければならない。

未だ元気な高齢者が法制度によって会社を定年退職し、巷で時間をもて余している方が多くみられるが、自らの健康状態と時間の許す限り地域の働く場にカムバックすれば、地域は更に活性化するであろう。

現役時代の仕事の多様性を取り入れ、同じような環境を生み出せば高齢者の毎日の次の楽しみが増えて次第にコミュニケーションが形成される。高齢者はボランティアという概念は捨て捨てる部分をしっかり設定する。

子供達の教育の手伝い（教員）、高齢障害者の家屋の修理（大工、電気、技師、水道工）、街の美化（造園業、清掃業）、震災等への備え（消防士、土木業）、他府県の高齢者との交流（旅行業）、野菜・食品作り（農業）。

上記のようなフリーの方々を活用し、高齢者と共に仕事が出来る環境を整えることによって“人から人への伝承”も加速する。

住民、行政、私共医療機関の三つが一体となって推進することによって地域は活性化し、明るい未来が開けるものと確信する。

先ずは地域全体の青写真を設定することである。当院、ユートピア沖縄は地域との関わりを積極的に推進しなければならない。

## 本年度の重点目標

### 1. ガンマナイフセンターの更なる充実発展

本年度はガンマナイフ治療で経験豊富な小西先生を常勤としてお迎えすることができました。本年度は各種脳腫瘍をはじめ、機能的脳外科（パーキンソン”、三叉神経痛等）、血管疾患に対する血管内治療等、他の医療機関との連携を強化し、充実発展に努める。

### 2. 健康管理センターの充実発展

数年来の懸案事項であった協会健保との契約成立で飛躍的に検診希望者が増え、

更に乳癌検診専門医である長島先生の指示のもとに、最新鋭のマンモグラフィ機器を駆使して、女性検診者の増強に努める。

### 3. 高気圧酸素療法センターの充実発展

潜水業務をはじめ、スポーツ関連、更に各診療科における保険診療の拡大に伴い、各医療機関、市民への周知徹底を図る。

## 新規事業の企画と実践

### 1. 訪問リハビリテーションの開設

身体の不自由な方々の為の機能訓練施設の開設は、昭和53年度で県下第1号であったが、その後外来通院リハビリ、回復期リハビリと進め、本年度は在宅訪問リハビリ訪問看護、訪問介護のニーズに応えるべく積極的に推進する。

### 2. 三世代健診の企画を推進

少子高齢社会を迎えた今日、健康長寿を全うするには中高年齢への対策に留まらず、幼少・若年期からの生活習慣の見直しが必要不可欠であり、当院ではメディカルフィットネスセンターを活用し、健康管理センターをより充実することによって、予防医学の立場から県民の健康維持増進、長寿に寄与する。

### 3. 認知症治療センター並びに地域包括支援センターの開設

地方経済を支える人口動態は、2025年には高齢者が半数を占める。若年層が減って高齢者だけの家庭や独居老人が増える。それ故に地域の中心となる高齢者が“元気で、健康で、楽しく”暮らしていくなければ地域も活性化しない。

医療や介護ばかりがクローズアップされているが、趣味を活かし元気でいる為の健康に対する投資など、高齢者が必要にしていることはまだ残されている。在

宅介護をどんどん推進する必要がある。

一方、これからのが国は高齢化に伴い認知症も増え、介護する人のケアや指導に対するニーズは益々増えていくであろう。

認知症はアルツハイマー型50%で幻覚や妄想による異常行動で介護者の負担増で、肉体的にも精神的にも強いストレスになり、認知症本人はもとより家庭崩壊にも繋がりかねない結果をもたらす。

そこで当院は第二の展望として病々連携、病診連携、かかりつけ医、歯科医、・保健薬局、介護福祉関連施設、行政書士等にも参加していただき後見人制度の関わる部分まで包括的に検討し、認知症の早期発見、早期診断、早期治療に取り組みたい。

- ・認知症認定看護師
- ・精神保健福祉士
- ・臨床心理士
- ・精神保健指導医等の確保

#### 4. 人工透析装置の新規導入

超高齢社会に突入し発症する疾患も多様化している中で、特に生活習慣の乱れ（食生活、運動不足等）による糖尿病の発症が年々増加しておりその結果糖尿病性腎症、糖尿病性網膜症、糖尿病性血管障害等が今後益々増える事が予測されます。これからのが病に対する高気圧酸素療法と共に、人工透析治療のニーズが増えてくる事が予測されます。県下の市場調査の上、透析装置の導入に専門医の招聘をすすめて参る計画であります。

#### 本年度における迅速な対応を要する事項

1. 全職員に対する法人理念、規約、組織等の周知徹底
2. 役職、中間管理職の意識改革
3. 増患対策（入院・外来）、訪問医療、訪問

看護（介護）、リハビリ

4. 地域連携室の強化で病々、病診、病施、地域住民との連携強化  
(医局・医事課・看護部・電算室・MSW・行政)、病床稼働率を90%以上に
5. 未収金対策（外来・病棟・各センター）：経営の根幹に関わる事項
6. 運営に直結する各種データ、資料等の作成（詳細に）  
(医事課、外来、病棟、各検査課（科）、栄養科、用度課、薬剤部、健康管理センター、各診療科、フローゲン)
7. 寿仁会機関誌《朋友 For you》の充実（編集委員の再選定）
8. 在庫管理の徹底（薬剤、消耗品）…年間4ヶ月毎の集計
9. 備品台帳の整備（備品の配置場所の確認）
10. 消耗品台帳の整理…年間4ヶ月毎の集計
11. 各種院内・イベントの再構築（講演、研修、文化、スポーツ）
12. ユートピア沖縄、クリニック糸、ディサービス、グループホーム等との密接な連携
13. セントラルケアビレッジの構想の充実発展
14. 不老園会員の増員対策と活性化
15. 病院評価機能、ISOの取得更新
16. AMDA活動の推進強化
17. 地域自主防災の構築と早急な実践
18. 専門に特化した医師の充実

※時間内就業の徹底と自己研鑽の為の時間外研修への積極的参加推進





## 2016年に向けて

医局長・健康管理センター長 長島 直樹

新年おめでとうございます。

旧年中は医局に格別のご厚情を賜り、誠にありがとうございました。

この数か月の間に、医局に内科の藤倉先生、脳神経外科の小西先生を常勤医として迎えてより一層の充実を見ることができました。これから「医療の質」が問われる時代に向けて、それに応えることができる体制が整いつつあります。本年は更に医局内の各医師の間の連携を強めて、医療の幅をより一層広げ、病院としての可能性を高めることができるように努力を続けていきたいと思います。

個人的にはまず当院で目指すことは、本年も標準医療であると思っています。標準医療とは「当たり前の医療」と言うことなのですが、厄介なことにその「当たり前」が年々変わっていきます。時々学会や講習会に出席しても、次々に常識が変化していくことにいつも戸惑い、冷や汗をかくような思いをしていますが、医療従事者である限り「今までこうしてきたからこれでいいんだ。」という安易な考えは通用しません。最新の医療情報にアンテナを張り巡らせて、常に標準医療に順応していかなくてはなりません。

2月29日には当院でも、著名な感染対策の伝道者である土井英史先生による院内ラウンド・講習会が予定されていますので、数多くの職員の皆さんのが参加をお願いします。いろいろな知識や技術が向上することが仕事をする上のいいモチベーションになっていけば喜ばしい事であるし、「プロ意識」を持って働く事の手助けになると思います。

また、病院内が更に気持ちよく働きやすい雰囲気になっていくべきだと思います。そのためには、まるで子供に対するようですが、何よりも挨拶をきちんとすることが大切です。アメリカのジョンズ・ホプキンス大学病院で働いていた時は、たとえ他の事は何ら問題ない人でも挨拶ができないと、かなり蔑視されていたのを覚えています。アメリカ人にとって“Goodbye”が“Good with ye”（神が汝と共にありますように）の略語であるように、挨拶は日常生活の中でかなり重要な要素となっています。別に必ずしもアメリカに合わせる必要もありませんが、せめて朝ぐらいは気持ちよく仕事を始めたいものです。

本年は病院内の作業の能率化も課題であると思います。そのためには、まず仕事内容の重複がないか、簡略化できるところがないかという見直しや、伝達の面からは各部署間の横のつながりの強化、連絡経路の再確認が必要になってくるように思われます。

内視鏡担当医としては、もう一本経鼻内視鏡が導入可能であれば、1日の症例数が増加すると共に、検査も早い時間で終了して受診者の待ち時間を短縮して、担当医も他の仕事をする時間を増やす事が可能であるように思っています。

「努力する人は希望を語り、怠ける人は不満を語る。」戦後の文壇をリードした1人、井上靖の言葉です。本年は医局として数多くの希望を語れる年にしたいと思いますので、変わらぬご支援をどうぞ宜しくお願い致します。



## 理想を現実にするために

ユートピア沖縄  
理事長代行 儀間 政秋

セントラル病院及びユートピア沖縄の職員の皆様、明けましておめでとうございます。新年早々硬い話になりますが、今日は「理想を現実にするため」について述べたいと思います。

これは自分達が寿仁会で働いていることの意義をしっかりと認識してもらい常に「お客様第一」を意識した自分の業務（職務）に誇りをもって戴くためです。当然ながら誰もが皆自分の生活に必要な報酬を得るために働いているでしょう。それはどんな職場でも同じです。しかしながら縁あって寿仁会で働いている皆さんには今自分達が働いている職場の背景及びそれに至るオーナーの思いを知る事で自分のやっている仕事に更なる自信や誇りを持ち、また明日に向かって自分のやるべき事が再認識できればと思っています。

近年、寿仁会はセントラル病院、ユートピア沖縄とも大変厳しい経営を強いられてきました。特に本来、大学病院など公的病院がやるべき高度医療を地域社会に貢献したいとの大仲理事長の強い思いもあって、特に自分の専門分野に関連する先進医療や特殊医療分野に力を入れてきた事も一部には影響をしたかも知れません。

「例え費用が掛かっても地域が必要としているなら」と尊い理想を持つ寿仁会をはじめ篤志家の病院オーナーの方々もめまぐるしく変わる医療行政の渦中で時代の変化（経済環境の変化）に合わせた事業の取捨選択を求められています。

現在、理事長の強い指示のもと東江監事が病院の内部改革を必死に取り組んでいます。それに理解を示し協力を惜しまぬ多くの病院スタッフのお蔭もあってやっと経営収支が右肩上がりに改善の方向が見えてきました。

ユートピア沖縄に於いてもこれまで大変厳しい事業運営を強いられてきました。昨年夏、開設以来手つかずになっていた入居料金等を適正なものにするためにお客様に負担増をお願いして参りました。社会保障などの各種出費が増えて苦しいお客様にどうにか事情をご理解してもらい料金値上げを了承して戴きました。それにより昨秋以降やっと厳しい経営状態から脱却できる道筋が見えてきました。

ユートピア沖縄は大仲理事長が長年温めていた熱い思い、「70前の大戦で廃墟化した郷土沖縄をこれまで発展させてきたお年寄りの皆さんのお後に少しでもお役に立ちたい」を実現するために5年前に開設し、ユートピア（理想郷）と名前を付けました。

県内には所得の低い方々が入所できる施設は沢山あるにも拘わらず、苦労して人生の成功者になられた方々が入居される施設が少ないと言う現実がありました。その様な方々の受け皿として社会的地位の高い入居者が心地よい自由な生活空間で介護・医療面でも不安なく快適な老後が過

ごせ、また御家族の社会的立場も考慮してハイグレードの理想的な在宅型の介護施設を目指しました。その為に運営費用は重なるものの多くの介護スタッフや看護師を配置し、またクリニックも併設した正に沖縄一の複合介護施設が誕生しました。

しかしながらいくら立派な施設であろうともユートピア沖縄に住んでおられる方々やその御家族の皆さんが現実にそこでのサービスに満足して頂け無ければ理事長が目指した理想の「ユートピア沖縄」にはなりません。総合的な「顧客満足度沖縄一」を目指すため私たちはユートピア沖縄の品質目標である

「お客様がユートピア沖縄を選んで本当に良かったと  
心から満足し、他に自慢したくなる様なサービスを提供すること」

をモットーに日々の業務を行っています。

「顧客の満足」「職員の幸せ」「事業者の適切な利益」が三位一体となって満足が得られてはじめて地に足のついた社会貢献をすることが出来ます。今、前述の様にセントラル病院、ユートピア沖縄とも経営収支の改善の兆しがはっきりと見える様になってきました。「一人で見る夢、それは夢に過ぎない。しかし皆で見る夢は現実となる」の言葉がありますが、社会貢献に対する大仲理事長の尊い思いを皆で共有し現実のものにするために我々寿仁会の医療・福祉事業に従事するすべてのスタッフが顧客第一を体に染み込ませ、夫々の「プロフェッショナルとしての技を磨き」一丸となって頑張っていきましょう！

本件に関して質問のある方は遠慮なく儀間にお申し付け下さい。

## 平成 27 年度 クリスマス会

～4階病棟デイルーム～ 2015.12.19





## 年頭のご挨拶

看護部長 遠藤 久乃

新年あけましておめでとうございます。

本年が寿仁会全職員の皆様にとって素晴らしい年になりますよう祈念しております。

当院は、地域の中で急性期病院から在宅への中核施設としての役割を果たし、外来診療活動、入退院支援、医療連携部門を強化し、包括的な取り組みを担う組織です。今後の超高齢化社会という社会状況は、高齢者の生活不安に対して急激な拍車をかけており、地域とのチーム連携が不可欠な時代となっています。院内でも職員全員が「チーム医療」を促進し、多職種の専門性を尊重し、情報の共有を図り、患者様やご家族に安心・安全を提供しなければなりません。新しい年を迎える、寿仁会職員の皆様と共にこれからも安全な療養環境を邁進していこうと思います。「ひたすら病める人々のために」全職員一丸となって頑張りましょう。

### 沖縄セントラル病院 病院理念

- ・ひたすら病める人々のために
- ・健全なる人々の更なる健康増進のために
- ・集いし職員の生涯修養の館たらんことを

### 看護部理念

1. 地域の人々の疾病の予防と健康増進のために、健診から在宅看護まで一貫した看護活動を通して地域に貢献します
2. 患者様の身体的、精神的、社会的ニーズにお応えし、きめ細かな看護・介護の実践を目指します
3. 患者様の人権を尊重し、質の高い看護・介護を提供するため、看護研修や研究を継続します

## 看護部方針

1. 信頼に基づいたチーム医療を提供します
2. 役割能力を発揮し、皆が働きやすい職場環境を実現します
3. 教育体制の充実でキャリアアップを図ります

## 看護部で求めたい人材

「自立・自律できる人」「笑顔で働くことができる人」  
「思考し行動できる人」「努力を惜しまない人」  
「笑顔で挨拶、返事ができる人」「感謝の気持ちを持った人」

## 2016年度 看護部目標

1. 病院理念、組織の周知徹底
  - 1) 法人に対する帰属意識を持つ
  - 2) 組織風土を基本化・標準化する
  - 3) PDCA サイクルで組織運営の向上を図る
  - 4) ミッション・ビジョン・ストラテジーを意識し行動する
  - 5) チーム医療の推進を図る
2. 安全で質の高い看護の提供
  - 1) 看護の専門性を発揮し、チーム医療を推進する
  - 2) 5S 運動を推進する
  - 3) 転倒転落件数の減少 前年度比 80% 以下
  - 4) 針刺し切創・褥瘡発生件数の減少 前年度比 80% 以下
  - 5) 倫理的感性を養い、現場で直面する倫理的課題を表現する
3. 看護の可視化・質評価の推進
  - 1) 主任会・教育委員会と共に定期的に看護実践を評価する
  - 2) 評価したデータを管理し、活用する
  - 3) パートナーシップ・ナーシングシステム (PNS) を導入し、醸成を促す
  - 4) PNS 導入による変化や効果の可視化を図る
4. 人材育成と自己啓発・研鑽の推進
  - 1) 職務能力による、職員の院内外研修を推進する
  - 2) 院外の教育活動を推進する

- 3) リーダー業務の標準化を図る
- 4) 中堅看護職員の人材活用を積極的に図る

## 5. 業務改善と活気ある職場作り

- 1) 職務満足度調査を継続して実施する
- 2) 各部署で1例以上の業務改善に取り組む
- 3) 看護チームの一員として、介護士との看介連携を図り作業効率化を推進する
- 4) ワークライフバランスを意識した業務遂行に取り組む

## 6. 病院経営への積極的な参画

- 1) 効率的、効果的な臨床管理を行い、運用する
- 2) 日常的に使用する医療材料のコスト意識を徹底する
- 3) 現状の資源を有効活用し、費用対効果を意識する
- 4) 病床稼働率88%維持
- 5) 退院調整による在院日数の短縮化と円滑な入院の推進

## 7. 接遇の向上

- 1) セントラル病院の職員としてふさわしい身だしなみ、態度を育成する
- 2) 接遇委員会の設置を推進する
- 3) 患者様からの職員に対する感謝が前年度より増加する

<キーワード> チーム医療 看介連携 標準化 接遇

## 平成28年度 外来活動計画(案)

看護部として平成28年度は、1. チーム医療 2. 標準化 3. 看介連携 4. 接遇の4つのテーマをあげている。外来はその中の1.と4.の2つに目的を絞り目標を立て取り組んでゆく。

### 1. チーム医療：

外来の診療活動に関わるすべての職種と、より良き連携を図り患者様・家族に最適な医療を提供する。

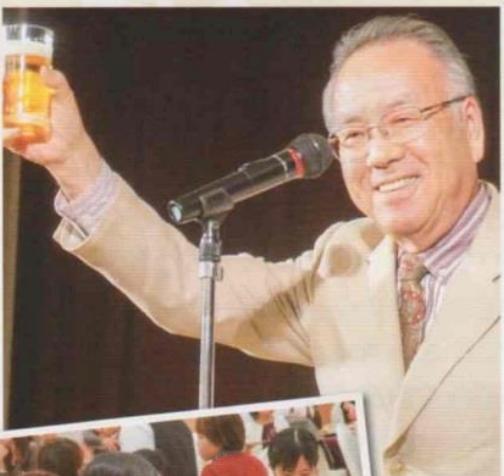
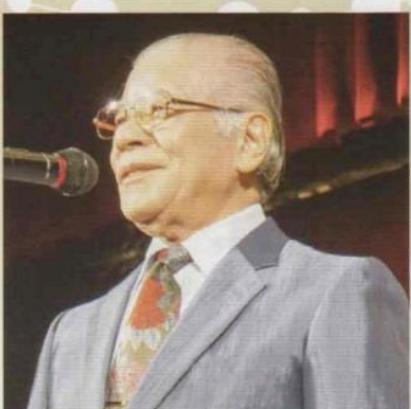
\*チーム医療の視点から、医事課・放射線・検査課・外来NSの4セクションで、外来診療改善に向けての話し合いを持ち、情報の共有、問題点の把握と改善を図る。

### 2. 接遇：

挨拶・身だしなみの基本を身につけ、職業人として律する。

\*患者様への言葉使いに気をつけ、明るく、温かく、感じよい対応を行います。

# 2015年 忘年



寿仁会バンド

# 会スナップ写真





#### バス

停留所: 県立看護大学前(徒歩約1分)

#### 車

那覇インターより約15分

那覇空港より約20分

#### 立地

徒歩5分圏内: 那覇東郵便局・那覇市民会館  
県立図書館・沖縄赤十字病院  
那覇警察署・与儀公園



## 医療法人 寿仁会 沖縄セントラル病院

〒902-0076 沖縄県那覇市与儀 1 丁目 26 番 6 号

TEL 098-854-5511 FAX 098-854-5519

ホームページ <http://www.jyujinkai.or.jp/>

## 医療法人 寿仁会 高齢者専用複合賃貸住宅 ユートピア沖縄

〒902-0064 沖縄県那覇市寄宮 2 丁目 1-18

TEL 098-854-5551 FAX 098-851-9026

ホームページ <http://www.utopia.jyujinkai.or.jp/>